

令和5年度 学校評価自己評価(後期)

鬼北町立日吉小学校

【評価基準】 A 80%以上達成 B 70%以上達成 C 60%以上達成 D 60%未満

重点目標		評価項目	評価	評価資料の分析	考察及び改善方法 (◇) (◆)
確かな学力		①しっかり考え、伝え合う授業を実践している。	B	○学校内の発表に留まらず、他校とのオンライン配信、リモート交流など様々なICTを有効に活用できた。 ●自分の考えを伝えることが苦手な児童が見られた。 ●アンケート結果では、教員と児童・保護者の評価に差がある。	◇今後もICTを活用したオンライン配信、リモート交流を積極的に取り入れ、多様な意見交流の場を設定していきたい。 ◆どの場面で話し合い活動を取り入れるか、明確なねらいを持って授業展開する。また、児童が伝え合う活動を認識できるような授業実践に努める。発表する際、発言の根拠を発表できるようにする。
		②基礎・基本が確実に定着し、家庭学習の習慣が身に付いている。	B	○家庭学習頑張り週間を設定し、家庭学習への取組について振り返らせることができた。 ●個人差が大きくなっている。家庭学習については、放課後子ども教室でのみの実施になっている児童も見られ、家庭での学習が習慣化にしていない。 ●ブルーライト視聴時間が長い児童ほど、学習時間・読書時間の確保ができていない。	◆家庭で決まった時刻に、決まった時間(学年×10分+10分)、決まった場所で学習するよう繰り返し啓発していく。 ◆計算ドリルや漢字スキルを活用して、学年相応の基礎・基本の定着を図るためにきめ細かい指導を充実させていく。 ◆家庭学習が身に付いていない児童については、保護者へのアプローチを繰り返し行う。
		③読書に親しんでいる。	B	○本屋へ行くプロジェクト、ファミリー読書や読み聞かせの実施など様々な取組を行った。また、タブレット端末を活用した読書記録も実施した。 ●通信制のゲームやYouTube視聴の時間が長くなり、読書時間が確保できていない。 ●児童の評価は高く、教職員の評価が低くなっている。	◇今後も様々な取組を行い、読書週間の定着を図りたい。 ◆児童の評価と教職員の評価の開きの原因の一つに、本のジャンルの偏りが考えられる。並行読書を推進するなど、読んでほしい本を積極的に紹介していく。 ◆家庭学習に読書を取り入れ、日々本に触れるようにする。
評価委員所見	学校関係者	○児童一人一人の個性や家庭環境により、学力の差等はあると思うので、個性を生かしていけば良いと思う。 ○読むことは考える力、書く力につながると思う。読む楽しさを伝えてほしい。 ○高学年になると自主的に家庭学習をする時間もあるかと思われるが、低学年においては、九九、音読等、家庭で実施すべき学習を設けることもあっていいのでは。放課後子ども教室の学習においては、早く切り上げたいがために文字が汚く感じられる。文字を読むというより、目で見る本が多く、図鑑、迷路、クイズ等を見ている。 ○先生と児童の目標の差がある。 ○いろいろな場面で児童は思ったことを伝えようと積極的である。同じような言い方で語彙不足を感じる。読書への関心や他校との交流を通して、他者から学ぶことが大切。ICTも日常使いができています。 ○学校、先生方もいろいろ工夫して児童の学力向上へ努めていただいていると思う。 ○個性ある子供たちを育ててください。 ○放課後子ども教室で宿題を済ませた児童に、さらに家庭で(学年×10分+10分)の学習時間を求めるのは難しいと思う。個に応じて自主勉強、発展的な学習をさせては。 ○本屋へ行くプロジェクトは、子供たちへの本への興味を持つきっかけにもなるので、これからも実施していただきたい。家庭学習の評価にばらつきがあるので、もう少し各家庭に意識してもらいたい。			学校の対応策 ○家庭学習の充実に関しては、個に応じた課題・タブレット端末での課題の与え方を検討する。家庭での学習時間については、放課後子ども教室での学習時間も加味するようにしていく。 ○家庭学習振り返りカードを工夫することで、自主学習を推奨する。自主学習の中で興味・関心のある学習に発展的に取り組ませる。 ○今後もICTを活用したオンライン配信、リモート交流を積極的に取り入れ、多様な意見交流の場を設定していく。今後、相手校との連携の仕方、交流の方法等の研修を積み重ねていく。 ○全校の日吉っ子会議等で、模範的な話し合いの進め方を示す。また、国語科の学習した内容を日吉っ子会議の中で発表する。 ○ICTの効果的な活用、考え話し合う授業の実践は、引き続き授業改善の視点として、日々の授業実践においても取り組んでいく。 ○読書習慣を身に付けさせるために、全校一斉読書の時間を設定する。本屋へ行くプロジェクト、ファミリー読書や読み聞かせを引き続き実施する。 ○放課後子ども教室コーディネーターと連携し、児童に読ませたい本を選択する。 ○月曜日に荷物が多いことを考慮し、本の返却日を火曜日にする等配慮する。

豊かな心	④地域の人々との交流活動や自然体験を取り入れた学習を 実践している。	A	○郷土学に限らず、総合的な学習の時間や各教科において、外部講師の方々との連携・協力、地域施設への訪問・交流などを行った。 ○学校運営協議会委員、日吉地区見守り隊、放課後子ども教室のサポーターの方々などへの交流を積極的・計画的に実施した。 ○児童、保護者、教員ともに高い評価を得ている。	◇郷土学をはじめ、いろいろな教育活動において地域の方との交流を図ることができている。 ◆地域からの情報を積極的に受け入れ、今後も郷土学やその他の教育活動の充実を図る。
	⑤進んで挨拶や返事ができる。	B	○1学期に比べると元気な挨拶や返事をする児童が増えてきた。 ○マンダリンパイレーツの選手と朝の挨拶運動を実施した。 ●児童の自己評価は高いが、来客者への挨拶、先取り挨拶には課題が見られる。また、人によって態度を変える児童も見られる。 ●問い掛けに対して返事ができない児童が多い。	◆先取り挨拶を奨励する。 ◆いつでも、どこでも、誰にでも、元気で気持ちの良い挨拶ができるよう、教師自らが進んで児童の模範となれるよう意識し、実践する。 ◆返事が返ってくるまで、何度も問い掛けたり、挨拶ができていない場面を取り上げたりして、指導していく。
	⑥きずな班活動を通して、仲間づくりに努めている。	A	○児童会の企画で、ハッピータイム(全校遊び)を実施できたが、まだまだ清掃以外のきずな班での活動が充実していない。 ○運動会練習や音楽練習、合同給食など、下級生を思いやる姿も多く見られた。	◇日吉っ子会議で、児童会担当者が様々なアイデアを出し、ICTを活用した交流を実践できた。 ◆きずな班での活動を積極的に企画し、実践していく。

評価委員所見 学校関係者	○あわてず見守っていったら良い。 ○明るく元気な挨拶ができるように心掛けてほしい。「挨拶されたらする」のではなく「相手より先に」 ○朝の挨拶はよく聞かすが、「さようなら」「こんにちは」が聞かれない。 ○発表会であれだけのことができることはすごいことだと思う。 ○郷土学で地域住民の多くが関わってもらっている。児童が楽しく学んでいることが郷土学発表会で分かった。人々との交流を通して、豊かな心が育ってきている。 ○児童の皆さん、とても大きな声で元気よく挨拶をしてくれる。 ○よく取り組まれている。 ○挨拶は日常生活を円滑に円満に、そして豊かに送る基盤となるもの。社会の一員として、また学校に出入りする一人の大人として、自ら進んで明るく子供たちや先生方に挨拶するよう実践していきたい。 ○挨拶に関しては、挨拶される側の大人も注意するところがあると思う。中には、学校に入ると挨拶する方もいるが、外に出れば挨拶することがない等。	学校の対応策	○いつでも、どこでも、誰にでも、元気で気持ちの良い挨拶ができるよう、教師自らが進んで児童の模範となれるよう意識し、実践する。朝の挨拶だけでなく、「さようなら」「こんにちは」「いただきます」「ごちそうさま」等の挨拶も指導徹底していく。 ○先取り挨拶の奨励や元気の良い挨拶をする児童への称揚など、目に見える形での意識付けと継続的な指導をする。 ○児童や学校の様子を知っていただくために、外部団体の方を招いての授業参観、郷土学を積極的に行う。 ○今後も地域の方との交流活動の充実を図る。郷土学の見直しを行うとともに、外部講師との綿密な連携を図る。
-----------------	--	--------	---

重点目標		評価項目	評定	評価資料の分析	考 察 及 び 改善方法 (◇) (◆)
健やかな体		⑦「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化が図られている。	A	○毎月の元気アップ習慣により、生活習慣の見直しを、養護助教諭・栄養教諭、学級担任が連携し、積極的に行った。 ●家庭により差があるが、不規則な生活や朝食の欠食が見られる児童がいる。就寝時刻の遅い児童が、固定化しつつある。 ●ブルーライトタイムは学年が上がるにつれて増加している。	◇ブルーライトタイムの影響について保護者への啓発を機会あるごとに行うことができた。 ◇保健だより、個人懇談などを通して、保護者への啓発を行った。 ◆今後も元気アップ調査の結果を基に学級担任と養護助教諭が連携し、保護者への啓発と児童への指導を続けたい。
		⑧楽しく運動を続けている。	A	○運動会では、中学生が小学生をうまくリードし、小中が連携して体力向上に取り組んだ。 ○陸上大会やマラソン大会に向けての放課後練習を無理のない方法で実践できた。低学年は体育科の時間に5分完走や縄跳び練習を継続的に取り入れた。 ○休み時間は運動場、雨天の日はトレーニングセンターで、思い切り体を動かしている児童が増えてきた。	◇運動会のダンス練習では、中学生が小学生をリードし、自主的に、また楽しみながら運動に取り組むことができた。 ◇体育的行事、授業など、個々の体力に応じた目標を持って取り組ませた。結果、目標達成の喜びを体験させることができた。特にマラソン大会では個々の目標に向かって全員が頑張ることができた。 ◆外で遊ぶことを億劫に感じる児童が数名いる。外遊びを奨励したい。
		⑨元気で学校に通学し、明るく学校生活を送っている。	A	○季節の変わり目に体調を崩す児童がいたが元気に登校できている。 ○新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの予防も含め、指導の徹底を図り流行を防ぐことができた。 ●2学期78日間中、全校欠席0の日が40日間であった。	◇ほとんどの児童が元気に登校し、学校生活を楽しんでいる。 ◆3学期も全校児童が元気に登校し、学習や運動、行事に取り組めるよう、家庭との連携を図っていく。
評価委員所見	学校関係者				学校の対応策
	○児童数が少ない分、ばらつきが多く見えると思う。欠食等については、家庭環境にもよるので、個々の観察と指導が必要と思うが、個の家庭の事情に入り込むのは、大変難しい。 ○「医食同源」の言葉があるように「食」は大事。 ○成長期における朝食の大切さ、実践するための保護者への啓発方法の検討が必要では。(小児科医、内科医、カウンセラーによる研修等) ○運動は楽しいだけではなく、克服する力の育成も大事。目標を立て、それに向かって頑張り、やればできる体験を。生涯にわたり、健康な体づくりにつながるように。 ○家庭内での指導も大切だと思う。 ○良好。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」の項目がA評価になるのは、先生方の地道な指導や保護者への啓発活動のおかげだと思う。引き続き望ましい家庭生活のあり方について考えていってほしい。 ○運動会やマラソン大会に向けての体力づくりなどいろいろ工夫して取り組まれていたと思う。				
		○欠食家庭については、家庭への啓発を継続して行う。 ○毎月実施している元気アップ調査を基に、養護助教諭を中心に、栄養教諭、学級担任、それぞれの立場から児童一人一人の実態の把握と指導を継続する。今後も家庭との連携を図りながら、全教職員が全ての児童に関わっていく手立てと情報の共有に努める。 ○ブルーライトタイム、オンラインゲーム等の体や脳への影響について、専門的な立場から、児童及び保護者への学習会を開催したい。 ○年間を通して、外遊びを奨励していく。各種運動カードを工夫して、水泳、マラソン、縄跳びなど、目標の達成を目指して克服する力を育成する。 ○体育科の時間の中に、集団走やITスタジアムへの挑戦時間を確保し、みんなで励まし合いながら運動することの喜びを体感させる。 ○「学校が楽しい。」と元気に登校できるよう、全教職員で児童一人一人を見取るとともに、より良い人間関係づくりと分かる授業実践に努める。			

学校・家庭・地域の連携	⑩ホームページ、学級通信・学校だより等で、学校の取組を発信している。	A	○ホームページは、ほぼ毎日更新をすることができた。保護者の方はもちろん、他地域に住んでいる児童の親戚の方もホームページを楽しみにされているようだ。また、ケーブルテレビを積極的に活用して、学校行事や児童の活動の様子を発信することができた。 ○保健だより、給食だより、学級通信等それぞれの立場から情報発信を行った。 ○学校行事の案内・アンケートのデジタル化を推進できた。	◇通信の発行やホームページの更新、ケーブルテレビでの放映など、メディアを有効活用した情報発信ができた。 ◇学校行事の案内・アンケートのデジタル化は教職員の業務改善につながった。 ◆今後も、教育活動の様子をメディアによって積極的に公開するとともに、課題解決に向けた啓発など内容の充実を図る。	
	⑪人・こと・ものとのかかわりを通して、開かれた学校づくりに取り組んでいる。	A	○日吉地区大運動会は、地域との共催でスムーズな運営ができた。 ○郷土学・総合的な学習の時間について、各種団体との連携・協力や地域コーディネーターの支援により充実した学習となった。年間計画通りの学習ができています。 ○学校運営協議会委員を招いての授業公開で、学校の様子を参観していただいた。	◇日吉地区大運動会では、実行委員会、公民館、中学校との連携を図りながら新しい取組ができた。 ◆今後も、地域からの情報を積極的に取り入れ、日吉らしい教育活動を展開する。 ◆開かれた学校づくりを実践するために、学校運営協議会委員、日吉地区見守り隊、放課後子ども教室のサポーター、郷土学でお世話になっている方々を招いて、郷土学発表会を実施する。	
	⑫保護者・地域住民・教職員と連携して教育活動を行っている。	A	○アルミ缶回収や草刈り、古紙回収など、大勢の保護者・地域の方に協力していただき感謝している。 ○郷土学や総合的な学習の時間など、多方面で協力していただいている。 ○参観日や役員会、奉仕作業等への参加率が高い。	◇日吉地区見守り隊や放課後子ども教室サポーター、読み聞かせボランティアなど、多くの方々に協力していただいている。 ◆保護者参加型の学校行事を取り入れていく。	
評価委員所見 学校関係者	○通信は各戸配布されるので、各役員への配布は無くてもいいのでは。45分(50分)という時間での公開授業では、小学校6学年、中学年3学年の授業参観には無理があり、このような評価には対応できにくい面が感じられる。 ○サポート体制が整って、安心して子供を通学させられるという保護者の声を聞く。先生たちの頑張りにも頭が下がる。 ○多方面から情報発信されているので、行事等の際も地域の方々にも積極的に協力されていると思う。 ○良好。 ○今年度も郷土学発表会を参観したが、学習の成果を学年に応じて上手に発表していた。学習に関わった方々が多く参観されていることにも驚いた。子供たちの感謝の気持ちが伝わったと思う。 ○アルミ缶回収や古紙回収、地域の方の協力が本当に根付いていてうれしい。ホームページもいつも誰が見ても分かりやすく、細かく説明をされていて見るのが楽しみである。			学校の対応策	○全戸配布の通信については、委員の方への配布の時期が3週間近く遅れるので、来年度第1回の学校運営協議会で御意見を聞くまでは、今まで通りとする。 ○公開授業については、見ていただく機会を増やし、一度に全ての学級を参観しなくてもいいようにする。 ○ホームページは、毎日更新している。ケーブルテレビ等も効果的に活用し、児童や学校の様子を地域の方々に知っていただくよう、今後も校内外での児童の活動の様子や学校運営の在り方についての情報公開に努める。 ○アルミ缶回収や古紙回収に協力いただく地域の方への感謝の気持ちを忘れることなく、充実したPTA活動に役立てる。 ○日吉地区見守り隊、放課後子ども教室サポーター、郷土学や総合的な学習の時間の講師の方々との連携を更に充実させる。